

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 有限会社 オブジェチーボ

1 事業の趣旨・目的

子どもと一緒に日本語を学びたいという要望に応え、親子で日本語会話や読み書きが学べるようにする。家族でも日本語を話す相手ができることで、学習へのモチベーションを高めるきっかけとなるようにしたい。目標として、日本語能力検定N4レベルをベースに、日本語力と生活習慣の違いを学び、生活に役立つ日本語習得の場としたい。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
5月14日	(有)チアホーザ内	知念 幸枝 知念ヨシオ 鈴木かおる 影山登美子 菊田 千秋 影山 裕	日本語教室開催に向けて①	・受講生の募集方法 ・開催日程の作成 ・運営経費について ・講師の選出 ・使用教科書・教材の検討
5月28日	(有)チアホーザ内	知念 幸枝 知念ヨシオ 鈴木かおる 影山登美子 菊田 千秋 影山 裕	日本語教室開催にむけて②	・カリキュラムの作成 ・使用教科書・教材の決定 ・受講者の申し込み状況
9月3日	(有)チアホーザ内	知念 幸枝 知念ヨシオ 鈴木かおる 影山登美子 菊田 千秋 影山 裕	日本語教室開催期間変更について	・実施期間変更について ・講座開催日程の決定 ・受講生の再募集方法

11月5日	(有)チアホーザ内	知念 幸枝 知念ヨシオ 鈴木かおる 影山登美子 菊田 千秋 影山 裕	報告会	・受講者の申し込み状況 ・講座開催日の最終調整
3月17日	(有)チアホーザ内	知念 幸枝 知念ヨシオ 鈴木かおる 影山登美子 菊田 千秋 影山 裕	事業終了報告会	・受講者の日本語能力習得結果 ・学習目標の達成状況 ・事業の成果、反省点 ・運営経費報告

【写真】

～会議風景～



3 日本語教室の開催について

- ① 講座名 「ブラジル人のための親子で学ぶ日本語会話と読み書き教室」
- ② 開催場所 (有)チアホーザ保育所内空き教室
- ③ 学習目標 親子で日本語会話や読み書きを学び、家庭でも日本語を話す相手ができることで、学習へのモチベーションを高めるきっかけとなるようにしたい。
目標として、日本語能力検定N4レベルをベースに、日本語力と生活習慣の違いも学び、生活に役立つ日本語習得の場としたい。
- ④ 使用した教材・リソース
日本語能力試験対策「漢字、ことば、文法」
みんなの日本語 初級Ⅰ
漢字練習帳

日本語発音トレーニング

昔話えほん

ブラジル人のためのニッポンの裏ワザ(生活密着)

辞書(日本語→ポルトガル語)

- ⑤ 受講者の募集方法 チラシを作成し配布(配布先:教室の開催場所である保育所の児童の保護者、磐田市多文化共生課、磐田市教育委員会)

- ⑥ 受講者の総数 14人(延べ人数ではなく, 受講した人数を記載すること。)

(出身・国籍別内訳 ブラジル 14)

- ⑦ 開催時間数(回数) 60時間 (全 20回)

- ⑧ 日本語教室の具体的内容

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語 (人)	教授者・補助者人数	内容
1	11月12日 9:00~12:00	3時間	10人	ブラジル ポルトガル語 (10)	教授者1人 補助者1人	開校式 日本語能力チェック
2	12月3日 9:00~12:00	3時間	7人	ブラジル ポルトガル語 (7)	教授者1人 補助者1人	日本のあいさつ 日常会話 ひらがな・カタカナI
3	12月10日 9:00~12:00	3時間	9人	ブラジル ポルトガル語 (9)	教授者1人 補助者1人	人の呼び方、時刻、時の表現の学習 ひらがな・カタカナII
4	12月17日 9:00~12:00	3時間	6人	ブラジル ポルトガル語 (6)	教授者1人	時の表現の学習 比較、評価の表現の学習 ひらがな・カタカナIII
5	12月24日 9:00~12:00	3時間	5人	ブラジル ポルトガル語 (5)	教授者1人	季節のあいさつ・会話 形容詞の学習 体験学習:年賀状作り
6	1月7日 9:00~12:00	3時間	4人	ブラジル ポルトガル語 (4)	教授者2人	形容詞を使用した疑応答 漢字の学習I(形容詞)
7	1月14日 9:00~12:00	3時間	6人	ブラジル ポルトガル語 (6)	教授者2人	過去・現在・未来形 漢字の学習II(動詞)
8	1月21日	3時間	8人	ブラジル	教授者2人	動詞を使用し質疑応答

	9:00~12:00			ポルトガル語 (8)		漢字の学習Ⅲ(学習した漢字を使用して作文)
9 10	1月28日 9:00~12:00 12:30~15:30	6時間	6人	ブラジル ポルトガル語 (6)	教授者2人	動詞を使用し質疑応答 漢字学習Ⅳ(テスト) インターネットを使って日本文化を学ぶ ・日本の年間行事
11	2月4日 9:00~12:00	3時間	5人	ブラジル ポルトガル語 (5)	教授者1人 補助者1人	インターネットを使って日本文化を学ぶ ・日本の学校制度や、地域の活動について
12	2月11日 9:00~12:00	3時間	8人	ブラジル ポルトガル語 (8)	教授者1人	格助詞の学習 作文演習
13	2月18日 9:00~12:00	3時間	10人	ブラジル ポルトガル語 (10)	教授者1人 補助者1人	数助詞の学習 作文演習
14 15	2月25日 9:00~12:00 12:30~15:30	6時間	6人	ブラジル ポルトガル語 (6)	教授者1人	9, 10回で学んだ日本の文化についての復習 体験学習:「ひな祭り」を取り上げ折り紙のひな人形を作成 「ブラジル人のためのニッポンの裏ワザ」テキストを使って生活の中によくある日本語の会話を楽しく学習する
16	3月3日 9:00~12:00	3時間	4人	ブラジル ポルトガル語 (4)	教授者1人	自己紹介文を作ってカードにし、会話をしながら交換する。 「ニッポンの裏ワザ」を使った会話学習
17	3月10日 9:00~12:00	3時間	7人	ブラジル ポルトガル語 (7)	教授者1人 補助者1人	まとめテスト (文法・漢字・表現)

18	3月17日 9:00~12:00	3時間	10人	ブラジル ポルトガル語 (10)	教授者1人 補助者1人	総合復習 ・講座で学習した表現やことばを使用して自由に会話する ・昔話えほんを朗読する 日本語の発音もチェック
19 20	3月24日 9:00~12:00 12:30~15:30	6時間	12人	ブラジル ポルトガル語 (12)	教授者1人 補助者2人	総合復習 ・日本の文化や行事について学んだことを発表する。 ・昔話えほんを朗読する 終了式 意見交換会 日本語で話す懇親会

⑨ 特徴的な授業風景(2~3回分)

【第2回 12月3日(土)】

日常生活の中での場面を想定し、ロールプレイング

受講生からは、レストランに行った時の店員との会話で質問や困ったこと、失敗したことなどが話題にあがった。レストランでは入店の際に店員が禁煙、喫煙席の希望を聞くが、受講生の多くは今まで何を聞かれているのかわからなかったようだ。

マクドナルドで注文をする場面では、正しい物の数え方が出来ないために失敗した経験などを受講生が話してくれ、外国人が間違えやすい点を共有し一緒に学ぶことができた。

指導する立場としては、店員の話す日本語に間違いがあることもあり、正しい日本語(丁寧語など)の説明が難しく感じた。

【第6回 1月7日(土)】

形容詞の学習

まずカードのイラストを見て形容詞か動詞か分けることから始めた。日本語では当然形容詞と分類されるものが、ポルトガル語の文法では動詞の分類になるものがあり、なぜそうなるのか言葉の意味や使い方を皆で一緒に考えて理解することができた。

比較的簡単な学習のはずが、初学者には難しい授業内容になってしまったが、辞書などを活用して調べたり、他にも同様の形容詞があるか考えたり、積極的に授業に参加することの楽しさを味わってもらえた。

【第10回 2月4日(土)】

インターネットを使って、日本の行事や文化を調べる。

1年の中で日本にはどんな行事があるのか、またその意味やその背景について話した。映像で見ることでより理解がしやすかったようである。お正月は割と知られているが、お盆、節分、お墓参りなどは意味も含めて知らない人が多く大変興味を持ったようだった。

また母国と比較しながら楽しく学べたようだ。この授業以後、日々目にしたものを写真に取って置き授業で質問するなど、積極的に日本文化、習慣を知ろうとする姿勢が見られた。

～授業風景～



4 事業に対する評価について

① 当初の学習目標の達成状況

- 日常会話の練習を繰り返すことにより日本語に対するストレスが減り、身近に感じられるようになった。

●大人と子供と一緒に学習することで、授業内で家庭の日常的なシチュエーションを作ることができ学びやすく、復習として家庭でも日本語を使ってみるきっかけとなった。

●日本語能力検定N4レベルをベースに学習したが、東日本大震災の影響で講座の開始遅れたため、検定試験に間に合わない日程になり今回は検定試験の受験者はいなかった。

また今回の受講者にはN4レベルでは少々レベルが高かったので、N5レベルのテキストを併用せざるを得なかった。学習が進んでいる受講者にはN3レベルのテキストも一部活用した。

●日本の文化や生活習慣に対する理解が深まり日本語を学ぶ意識が変わり、日常生活の中で自ら疑問を見つけ授業で質問するようになった。

② 学習者の習得状況

●ひらがな・カタカナは全員読み書きができるようになった。

●子供用の日本の「昔話えほん」が読めるようになった。ただし、話の意味までは理解できないので解説は必要であった。

●漢字は初級の80字を学習し、まとめテストでは読みはほぼ習得、書きはまだ不十分であった。

●特に意欲的な受講者は、毎回自宅で1回目からの学習の復習をしており、今まで学習したことは完璧に習得した。また漢字を使った作文ができるようになった。

③ 日本語教室設置運営の効果, 成果

日常生活で家族や友達、近所の人などと交わす会話を中心とした内容にしたことで、反復しやすく習得状況もよかった。家族との学習内容の共有はもちろん、近所との付き合いや「ごみ当番」にも自信が持てるようになり、地域の祭りへの参加にも意欲を持ったようである。

④ 地域の関係者との連携による効果, 成果 等

昨年までは磐田市生活文化部共生社会推進課に講座の開催を伝え、募集チラシを渡すのみであったが、外国人登録の窓口で紹介してもらえるような体制ができた。

⑤ 改善点, 今後の課題について

a. 現状

●ブラジル人の仕事や生活が安定しておらず、毎週同曜日に参加することができない。日本語を学びたいという気持ちがあっても継続して教室に通うのは難しい状況にある。

●日本語の学習の中で関心を持っていること(読み書き、会話、文化・生活習慣)が、それぞれに違い、また習得希望レベルも違うため十分に対応できていない。

b. 今後の課題

●開催曜日を複数回にするなどより多くの授業に参加できるようにすること。

c. 今後の活動予定, 展望

●1回1回の授業に特色を持たせたカリキュラムを作って事前に配布し、興味を持った授業内容を選んで参加できるようにする。

例) 日常マナー、生活シーンでの会話(病院・学校・買い物)、漢字、文化、敬語、日本語能力検定試験対策など

●ブラジル人の集まるイベントなどで事前に日本語教室の説明会を行いより多くの人に日本語教室に参加してもらいたい。

●平日夜間コースを設定したい。